

第IV章 認定社会福祉士の認定後の「他者からの評価」

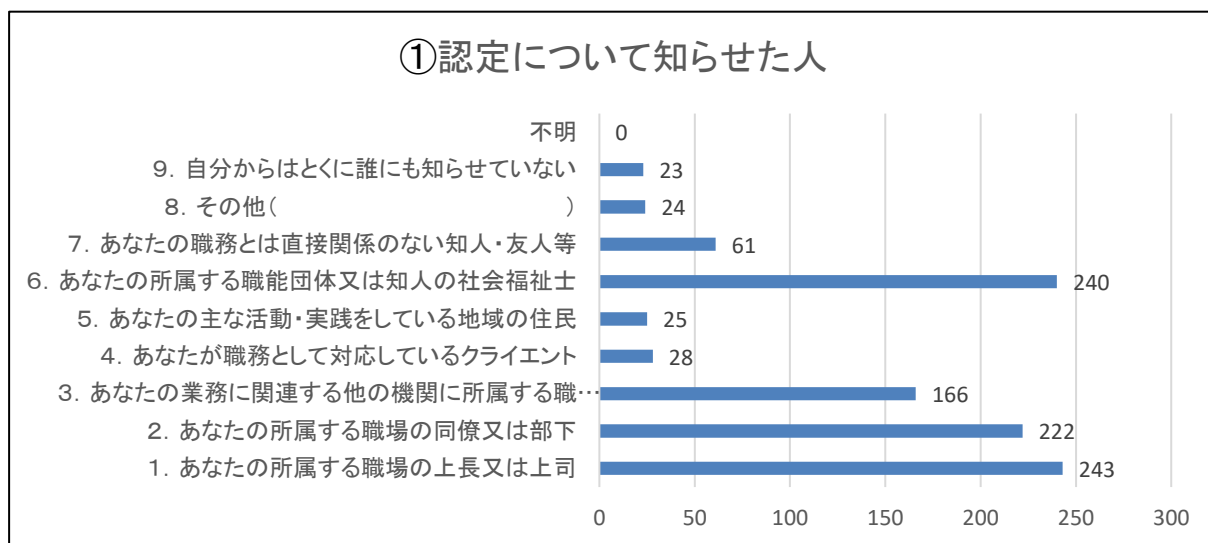
調査項目の大項目IVについては、①の設問では、まず、認定社会福祉士となった本人自身が、認定を受けたことについて誰に表明したのか、②の設問では、その表明はどのような方法や手段で行ったのか、③での設問では、①②の結果、誰から関心又は評価を示してもらえたと感じたのか、を3段階で尋ね、④の設問では、その関心又は評価の内容を記述で表記していただきました。

他者から評価を受けているかどうか、又は評価されていると感じたかどうか、については、非常に主観的であり、指標とはなりにくいため、一部記述での回答を求めました。

IV. 認定を受けた後の「他者からの評価」について、次の①から④までの項目にお答えください。(該当する項目の番号に○印)

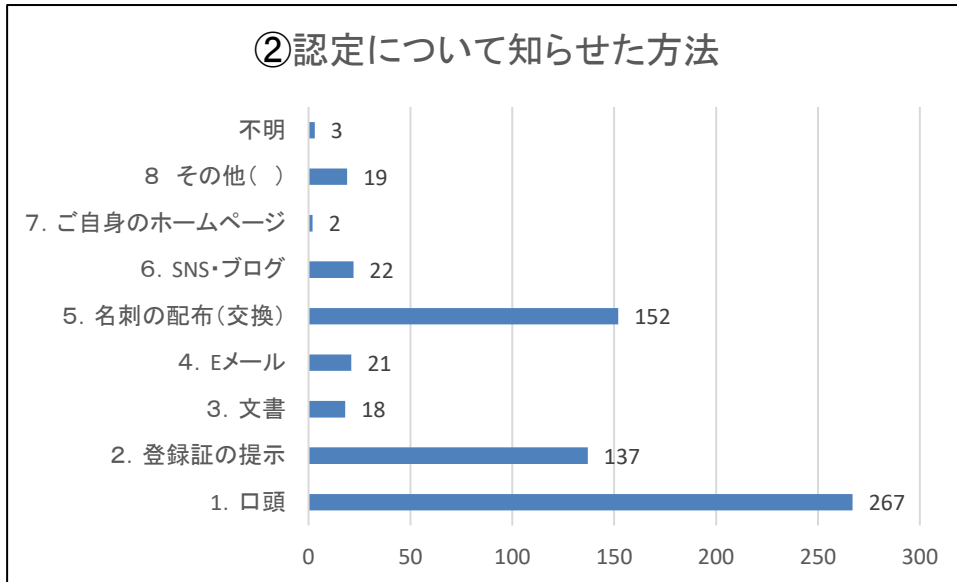
① あなたは、認定を受けたことを、どのような人に知らせましたか。(日本社会福祉士会でのホームページでの登録情報の公表については「知らせた」には含みません。)*複数回答可

認定を受けたことをした人の内、最も多かったのは、「所属する職場の上長又は上司」で243人(複数回答、以下同様)、続いて「所属する職能団体又は知人の社会福祉士」が240名、「所属する職場の同僚又は部下」が222名でした。



② それは、どのような方法・手段で知らせましたか。(上記①の問いで1から8までのいずれかに○印をつけた方のみお答えください。)*複数回答可

認定を受けたことを知らせた方法・手段については、「口頭」が267名(複数回答、以下同様)と最も多く、続いて、「名刺の配布(交換)」が152名、「登録証の提示」が137名で、一方、それ以外の方法・手段は非常に少ない、という結果でした。



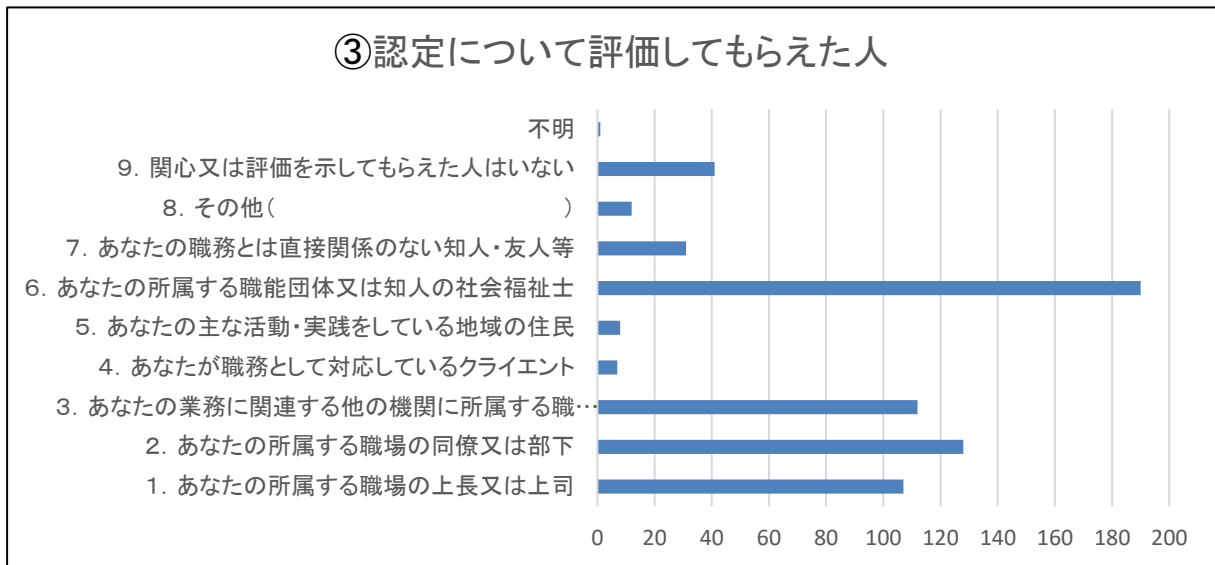
③ 上記①の問いで回答している、認定を受けたことを知らせた人の中で、認定を受けたことに「関心、又は評価を示してもらえた」と、あなたが感じたのはどのような人ですか。(上記①の問いで1から8までのいずれかに○印をつけた方のみお答えください。)*複数回答可

認定を受けたことに「関心、又は評価を示してもらえた」と感じた人内、最も多かったのは、「所属する職能団体又は知人の社会福祉士」の190名（複数回答、以下同様）で、続いて「所属する職場の同僚又は部下」が128名、次に、「業務に関連する他の機関に所属する職員・専門職等」で112人でした。

①の設問で、認定を受けたことを知らせた人数に対して、「関心、又は評価を示してもらえた」と感じた人数が、いずれの項目についても減っていることが確認できます。

また、「所属する職場の上長又は上司」から「関心、又は評価を示してもらえた」という人は107名となっており、①の設問の回答で知らせたとしている243名に対し、半分の人数以下となっているのが特徴的でした。

多くの認定社会福祉士が、身内の職場、団体に対しては知らせているのに対し、それ以外の対外的な人に対して知らせている認定社会福祉士は少ないという傾向が確認できました。認定社会福祉士自身から「認定社会福祉士」の認知度、知名度が低いという意見が他の設問の記述回答から見られましたが、その、認定社会福祉士自身からは、対外的に「認定社会福祉士」について知らせようという行動をとっていないと読み取ることもできます。



④ その「関心、又は評価」の内容について具体的に教えてください。(前掲③の問いで1から8までのいずれかに○印をつけた方のみお答えください。)* 記述でお答えください

No.	内 容
1	すごいねー。ってのみ
3	「申請が大変なのに良くやったね」(申請する暇がない)「とって何かメリットあった?」
5	所属団体の研修の際に「認定を受けるまで」の経過など他会員にプレゼンした。
7	認定取得の方法等について聞かれ、自身も考えてみたいと言われた。
8	「認定社会福祉士かあ、へえ～」程度でした。
10	認定までの過程で作成したレポートを上司に事前提出していた為、労ってもらえた。また、理論と実践の統合をより具体的にイメージしてもらえたことから「後進の指導を任せる」と判断してもらえた。
12	登録証のコピーをとられた。
13	自分も目指したいと言われた。
14	部下達は認定社会福祉士(医療分野)に興味を持ち、それを取得することを目指すものもいる。
18	よく頑張ったネ、自分もやってみようかな・・・という関心はあった。高い評価というものではない。
19	認定社会福祉士(医療分野)の存在を知らなかった人も多い。ナースからすると「専門」は「認定」より上なので「別に・・・」という印象。
23	講習会(市民後見人セミナー等)で配布する資料に講師の肩書きとして「認定社会福祉士」を入れている。会場で資格について説明すると反応がある。学生の講義(ゼミ等)でも同様。
25	話を全く聞かない自己主張のみの、ぱあとなあ会員が一応話を聞いた。認定研修の意義は深いからぜひ勉強をと、おすすめしました。
26	・認定社会福祉士というものがあることを知ってもらえた。・他の社会福祉士に対して、認定社会福祉士の取得を目指す刺激となった。
28	職場の同僚と一緒に喜んでもらえ、知人の社会福祉士は自身も目指したいと関心を示していた。
30	認定で担う役割について報告し、組織内で認められて行動できる。
31	「すごいねえ」と評価された。
32	専門性が高いという評価。
35	社交辞令程度で強い関心はなく、独立型の方に興味関心が高いような気がする。
37	取得したのね、すごいね、という程度。正式な評価はどうしてもらっているかは不明。
40	へー、すごいね、努力しているんだね、程度の感想。
42	具体的にどのようにすれば資格が取れるのか聞かれたりした。職場の人からは次は自分も取りたいと言ってもらえた。

43	本人も認定を目指していた為。
44	自己研鑽していることについての評価。
45	認定社会福祉士制度を知っており、研修への参加を促してくれた●、労いの言葉をかけてくれた。
46	新聞で取り上げられ、数件の問合せをもらった。
48	「うわー、すごい」という感嘆の声のみ。
49	より効率的業務のあり方に積極的にかかわるようになった。支援にエビデンスを示すようになった。
50	自分も認定社会福祉士を取りたいと意欲的になり、実際に資格取得を目指している人が複数いる。
53	行政の新しい事業の契約において、指名推薦していただきました。
54	所属組織では認定等の取得者は組織内（職員に対し）公表されており、どの部門が研鑽をつんでいるか一目で分かる。外部からの講師依頼に適切かどうか、依頼時の検討材料となる。
56	どうして取ろうと思ったんですか。
58	口頭と登録書の提示した時に上司より「すごい頑張りましたね」と言われたのみです。
59	直属の上司（副室長）が一番努力を認めてくれ、室長や院長へ資格取得の報告をしてくれた。
61	基礎研修受講中の知人の社会福祉士から受講した研修（特別研修）の内容について尋ねられた。
64	「で、どう役に立つのでしょうか？」
65	取得方法や特別研修の内容について質問を受けた。
66	認定ですか？とるための研修などの道すじについて聞かれた。
67	どういう制度であるか聞かれた。
69	認定看護師から「認定～」登録する事は大変であるとのイメージが業界内（医療、福祉）で持たれている。技術うんぬんより登録までの費用とか期間、登録者数が少ない事に関心を持っているようです。
70	・3（関連機関）…高齢者生活支援推進会議委員、社会福祉法人第三者委員。・5（地域住民）…福祉講演会を機に福祉相談（成年後見制度）の増加。・6（知人社会福祉士）…認定社会福祉士取得手順の教示、SVの受け方。・8（その他地区社協会長）…地域における●擁護の相談担当依頼。
75	「すごいネ」
78	認定をとるために東京に行っていることを知っている職員からは“大変でしたね”と労いの言葉をいただきました。
81	価値的な所で意見を求められる場が増えた。
84	すごいですねと言われた（表面的なものかもしれませんが）。
85	講師の依頼に関して、今後も依頼したいので認定証のコピーの提出を求められた。
86	「どうやって取得できたのか」「それはどれだけ大変だったか」という質問が多かった。

89	私も機会があれば取得できるように頑張りますと言われました。
90	自分も認定を目指そうという意欲を示していた。
91	医療機関に勤務しているため、他職種が多くの認定資格を所持している。そのため評価はされている。
92	会報で掲載してもらった。研修等で紹介された。
94	・職場に関しては、利用者に優しく献身的にしていれば良く、介護士かケアマネで十分と認識され、社福士は全く関係ない職場同士のため報告イコール実務経験証明の依頼です。・県士会では貴重な存在らしく、多少は評価されると思う。
95	更新しておいた方が良いのではないかと助言を頂いた。
96	「やったね！」(認定をとった人)「え？本当？どうやって？」「え？すごいー」「取り方の流れを教えて！」
100	認定を受けた、上位資格だという評価。
101	一緒に認定申請を行ったため、通って良かったね、という程度です。
102	会員の資質向上の育成に携わるより依頼される機会が多くなった。
104	意味のないものという見方をする者もあるが、自身が生涯研修に関心を寄せている人は評価する。
105	社会福祉士の中には認定資格を知っている者がいて、認定という新しい資格に関心を持ってもらった。
106	認定看護師が知られていく中、社会福祉士をそういうふうになったのね、という感想。また、専門職においてはそれなりに知られていることもあり、自分も取得したいが、どのようなレポートを書くのかといった質問を受けました。
107	職場に登録証の写しを提出するように言われ、提出した（特に何もありませんが）。
108	認定を受けることに挑戦したことについて、評価してもらえた。
110	専門性の自立として上司より評価してもらった。同じ社福からは「自分も目指したい」と評価、賛同の声を得た。
111	認定社会福祉士とは何か、法的に定める根拠はあるのか、どのくらいの人数がいるのか、将来の見込みはどうか。
114	資格手当が増えた。
116	自分の住んでいる地域では、初めての認定社会福祉士だったため、「すごい」と言われました。（特に具体的な内容ではなかった）
117	他機関に属する社会福祉士から自分も認定まで取りたいとの思いが聞かれた。
118	会員同士でのネットワークの中で認定を取得したことの話題が時々持ち上がり、それぞれ関心が高いのだと思われる。
121	協会の先輩方から「認定とられたんですね、頑張ってますね」と声かけられた。
122	「まだ認定を受けてる人は少ないのでしょうか！？」「すごいですね」とあいさつ代わりに一言。

125	同業者（社会福祉士）からは「ステイタス」位にしか思われなかったが、同じ認定制度がある職種や医師の方が評価が高く認定資格を取得して当たり前という感覚があるように思う。
131	国家資格を取ったら終わり、ということではなく更に研鑽を積む必要があるのだということを理解してもらえた。
132	その努力（さらなる資格取得）についてご評価いただいた。（一方「時間と金と無駄遣いだ」との評価もいただいた。）
134	すごいね、位。
135	同業者（社会福祉士）の多くは「私も目指したい」として具体的な取得方法を調べたり、研修受講する方が増えたと実感。他業種の知人や友人、家族からは率直に評価を受けた。（数が少ない中でパイオニア的存在、これからの人を育成する立場、など）
137	更新のための研修をどう受けるのかに関心。
138	上司は他職種であるが、ソーシャルワーカーの世界できちんと認定を受けたことは「大切なこと」と評価してくれた。同僚や知人の社会福祉士の方が「たくさん研修・講師・学会発表をしてきたことがカタチになった」という点で評価を具体的にしてくれた。
139	社会福祉士会の会員年数が若い方からは、先輩としてちょっと尊敬の念で、同じころか、その前からの会員からは頑張ったんだねと努力をかわれている。
141	「「認定」を取られたのはすごいですね」と称賛を得た（ごく1~2名だが）。 「「認定」を取るのは難しいのですか」の関心をもたれた。
142	発言に一目置いてもらえる。相談内容がより困難な内容になった。
143	どのようにしたら取得できるか？という内容や難易度について。
144	「認定を取られたんですね。すごいですね。」
145	医療機関においては認定や専門の資格を取得することは、職場の医師を含め他職種から評価対象となる。県内で一番目の認定社会福祉士を取得したため、アドバイスを求められることもある。
146	認定社会福祉士を目指している人は評価してくれました。自分には関係ない（研修単位などクリアできない）と思っている人は今一つでした。
148	地方勤務のため取得に際し、どのような苦労があったか（ポイント獲得）どのぐらい費用がかかったかなど、取得過程に関する質問を多く受けた（関心）。
149	取得する事が大変だと聞いている人の中で、頑張ったんですね、とお褒めの言葉を頂いたり、信頼が高まっている事を自覚した。福祉関係の方の評価は、専門性をある程度認めて下さっている中での評価と考えます。
151	どういう制度なのか（いつから始まった、どうやったらなれるのか）について聞かれたり、その方自身がホームページで確認した。何が出来るようになるのかについて確認された。
154	「へー」と言われた。
156	「認定社会福祉士」という人が存在していることを知らない人が多く、「何それ？」「何人いるの？」「何が出来るの？」などの問い合わせがあった。
157	相手の自分に対する認識が確実に高まり、業務等の依頼に良い影響が出ている。その期待を裏切らないように誠実な対応ができるように自己研鑽に努め

	ていきたい。
158	すごいと言われるだけ。
161	共通研修でのファシリテータを任される、会員のスーパービジョンを担当する、等の役割を与えられたこと。(一方、職場での評価は全くなしです。)
163	「認定社士は全国で何名いるのか?」「どのような過程で取得できるのか?」を所属の上司から説明を求められ、それを基に私の待遇向上について所属長に働きかけてもらった。
164	認定証のコピーを提出。現在法人全体で認定者を一覧把握しているので、そこに追記してもらった。
165	社会福祉士としてのスキルの高低とは客観的にどのようなものか。また能力の高い社会福祉士とは具体的にどのような人か。これらをより明らかにする良い契機であると言われた。
167	・後輩の指導を積極的にまかされるようになった。・支援内容について意見を求められるようになった。
170	「取られたのですね」と相手から話題にされる。
171	名刺で自己紹介をした時、認定を取ったんですね、と言われる。
173	まだまだ全国的に人数が少なく存在が希である。登録申請までの研修や理論・知識の量、取得の方法、今後の実践・活動の内容に期待。
174	忙しいのによく研修と課題に取り組んだ。
175	これからの活躍、活動の幅が広がるのではないか。
177	どのような研修を受けたか質問された。部下に「チャレンジしてみたい」と意欲を持ってもらえた。
178	どのようにして取得したのか尋ねられた。「すごいねー」と言われた。
180	どの分野を選択したか。
183	働きながら学び続けていることを評価してもらえた→同僚や部下に学んで欲しいと思っている。しかし「認定社会福祉士」そのものに対しては理解していないと思う。
184	上司、スーパーバイザーとしてどのようなスキルを持っているかということの評価。
186	社会福祉士として施設で働いている友人は認定について興味を持っていた。
187	どういう手順だったか、何を勉強したか、どうすれば認定社会福祉士になれるか、など多くの質問を受けた。また数名の方から連絡を受け面談を行った。より専門性を高めるにはどうするべきかなど議論の機会が増えた。
188	認定を受けるまでの手順や研修内容やかかった時間、それまでの研修実践(実績)への取り組みについて。
189	困難な(難易度の高い)資格を取得した努力を評価してくれた。
190	資格の内容について理解や関心がある方のみであり、全体的には周知されていない。そもそもにして「社会福祉士」が知られていないため、「認定社会福祉士」も知らない人が多い。又、言い方の問題(ソーシャルワーカー)もあると思う。※社会福祉士よりもソーシャルワーカーと言えればわかる人が多い。国家資格であるのに、横文字が先行している職種である。

191	・認定を取るまでの行程が大変なことを知っている（登録できなかった人を含む）ため「がんばったね」というエールをもらえている。・先輩認定者からSVの具体的な話をもらい、よりいっそう向上していくためのネットワークができた。
195	若手のモデルとなる。
196	努力に対して敬意してもらえた。
200	審査終了頃に先方から進捗状況の照会等があった。
202	研鑽を続けていることを評価された。
204	（専門職）職能団体の社会福祉士より認定社会福祉士になる手続きの流れについて質問を受けることが多い。
205	コンスタントの研修等をこなしていないと申請ができないことを知っている人たちにしか、この変に申請までハードルが高いシステムは分からない、ということがあると思います。職場にはそのシステムについて情報が入っていないことから、全く評価された印象が持てませんでした。
206	「認定を取られたんですね」すごいですね。研修の資料に認定をつけた。
207	他の社会福祉士と比べて高い専門知識を有していること。
208	認定社会福祉士とは何かと問われたり、同制度を知っている方からは良かったですねと評価？された言葉をいただきましたが、道は開かれませんでした。今、地域でボランティア活動を実践しています。
209	認定の仲間ができたことの喜びと今後スキルアップしようとしたこと。
210	①大変だったでしょ。②何か役に立つ役立つのか？③どうしたら良いのか？
211	認定そのものの意味が不明…と疑問を受け止めたのみ。
212	研修の講師依頼を受けた（県士会）。
214	職場の後輩も資格取得のために頑張っており「登録証が見たい、励みに頑張る」と言っていた。家族は「良かったね、頑張ったね」と言っていた。
215	その方は社福士だが認定のことをご存知ではなかったようで、「そのような制度があるのね」と言ってくれた。
216	同僚（現職場での勤務歴は上）は認定を受けておらず、下である自分が“認定”を受けていることで、同僚としては自身の地位が脅かされると思っている節があり、他部署に対して啓発を行わない。
218	県士会で新人会員と一緒に祝賀会を開いていただきました。
220	自分自身を他者へ紹介する際に認定社会福祉士を取った人です、と紹介されるようになった。
222	将来的に認定社会福祉士を目指す方との繋がりが深まった研修企画が増えた。
223	基礎研修の講師依頼を受けた。
225	より専門性を発揮する事を期待された。
227	・認定制度を作ってこられた先生に「取ったのね！」と評価された。・同じく認定を取得した社福祉から互いに「頑張った」と評価。・知人の福祉士から「認定を持っている人だ」と言われた。・同業他職種から社福祉も「認定があるのね！」と評価？を受けた。

229	“関心”は示してくれた人はあったが、ほとんど何の変化もない。反対に上司(?)には「それがどうした!」とパワハラを受けた。
233	特に自分から進んで伝えたりはしないが、地域の中で良い仕事をして、実は認定社会福祉士だったと、後で分かれば良いと思う。
234	特に具体的な評価はなかった。(「取得されているのですか…」と言う程度です)
235	当会のブロック研修の中に「スキルアップの手引き」というセッションで、認定を受けた5人で公開セッションを実施したことで、関心が高まった。
238	どのようにすれば認定を取れるのかという質問が多かった。(今後、独立型は認定を有することが必要と言われているため)
240	「よく勉強しているんですね」と言われた。
241	どのように取得したのか聞かれたり、講師等の話ができるようになった。又、上司からは努力を労われ資格手当が増えた。
242	他の社会福祉士や部下への取得の意義について説明することにより、専門性の向上に必要であることに関心が高まったと感じた。
244	部下も認定にチャレンジした方が良いか考える機会になった。
246	取得のための努力を評価。
247	「すごいですねえ」と言われるくらいです。取得についてのプロセスについても聞かれます。動きまでの細かなことは聞かれたり評価されたことはありません。
249	継続して研修を受けていることへの評価。
250	「県内で〇人しかいないのに素晴らしい」「初めて認定社会福祉士に会った」と言われた。
251	職場で認定社会福祉士を目指す人が出てきた。
252	・社会福祉士に認定の資格ができたこと。・取得の方法。
253	部下も認定社会福祉士取得を目指し頑張っている。
254	認定を勧めてくれた人に報告し今後のアドバイスを受けた。認定を検討する人に方法等を伝えた。
255	認定社会福祉士を知っている人は評価していただくが、知らない人が大部分である。
256	県のある社福士会会員より認定社会福祉士になったことについてメーリングリストにて他の一部会員に広報された。
258	・組織内での役員会で周知してもらった。・研修会、勉強会で開催するにあたり企画段階での相談が多くなった。・教育機関からの講義依頼など。
261	「すごいね」と言われたぐらいです。
263	私は介護保険の居宅の事業所をしています。市の監査指導(ルーチン、新事業所には必ず入るもの)などの時に、掲示物を見るが、一定の評価の一つになった。当然、指摘することは何もないとの評価を頂いた。部下、知人の社会福祉士については、取得するまでの道のりや研修を受けたことについて評価頂いている。
265	上長からは職場の機関誌へ掲載してもらった。同僚は自らも取得に向けて動

	き始めた。
266	職能団体としては認定が増えることを期待しているので評価してくれている。
267	「よかった」と祝ってもらえた。
269	・よかったね。・どんなことやったの？
270	3→名刺を交換する際、認定社会福祉士であることでより専門的な会話やりとりができた。6→職能団体の役員をしているため、他の社会福祉士も関心を持ち認定にチャレンジしようと思ってもらえたこと。
271	自分もいつかは取得したいと言われた。あこがれであると言われた。
273	認定を持っているなどの評価。基礎研修の講師紹介の時に司会者より認定を持っている旨紹介された。
274	身近にいると心強い。目標となる。
275	現在の職場は同法人内に医療機関だけでなく高齢者施設等があるため、社会福祉士がたくさん勤務しているが、その中でステップアップできる認定社会福祉士があることに関心を示されて専門職であることを認識していただいた。
276	「勉強が好きなんだね」と言われた。評価というよりは単なる肯定という感じ。
278	熱心な同僚や社会福祉士仲間の目標にされたというか、認定取得のモチベーションが周辺も高まったように感じます。
280	素晴らしいとの言葉を受け取った。その後給与アップについて交渉したが、認定社会福祉士としての評価ではなく、主任手当としての評価のみに止った。実際、評価されていないと感じる。
282	同じ認定社会福祉士として更新していこうということを共有できたのが嬉しかった。
283	認定を受けたことを評価されたためと思うが、研究会等に誘いを受けることがあった。
284	認定社会福祉士に関心のある知人や同僚から認定についての相談を受けたり、ケースについての相談（困難事例）を多く受けるようになった。
285	認定社会福祉士を増やすことができた。
286	努力していること、研修時間や課題・出張が多いこと、なかなか取得が難しいことなどの理解をまばらに知ってもらっていた。
289	所属する委員会で役職についているため委員に対し一定の評価が得られることが必要と感じており、それが達せられたと思う。
290	所属の同僚も認定取得したため。
291	他の医療機関のソーシャルワーカーに「すごいね！私も認定を取りたいと思っている」と言われた。そんなに関わることのない人なので、認定を知っていて関心を持たれていることに驚いた。
292	認定社会福祉士となっている人について話題に上がることもある。
293	「手続きめんどくさいですよ！！」→受けた人（共感）、「手続きしたの？自分はしない」→受けない人（否定的）。

294	認定を受けることが出来たプロセス、取り組み指定。
295	上司他、当セクションではすでに認定 CSW が複数名いる。取得していて当たり前の雰囲気があるので、はじめから大きな期待はなかったが、それでも正当に評価され嬉しかった。
296	部下からは「自分もそうになりたい」と言われた。
298	全国でも数が少ない認定資格を持っているのですね、と言われた。
299	医療職の上司であったため、認定制度に対する理解があり。
301	②③については口頭で評価された。⑥については口頭及び学習方法について聞かれた。⑦については取得方法について電話などで聞かれた。
303	研修資料を熟読し価値あるものと言っていた。上司自身の活動にも即活かしていた。
304	職能団体に所属の社会福祉士からは取得方法（具体的にどうしたか）を尋ねられた。上司は保健師であり、資格取得後のスキルの向上に強い関心と必要性の理解がある。認定制度の流れや期待されている役割についての情報を求められ、機構の HP より抜粋し情報提供した。
305	専門職としての扱いがあった。
306	社会福祉の方が「すごいですねー」と言うだけ。
309	スーパービジョンのスーパーバイザーと一つの依頼など。
310	県士会事業の研修で資格取得を紹介された。
312	クライアントから、より高い資格取得はクライアントへの支援に役立つ、常に努力してくれることが嬉しい、と。
314	・研究、研修の姿勢と努力。・今までの貢献。
315	声をかけて頂けた。取材頂いた。
316	認定取得のプロセスについて質問を受けた。
317	社会福祉士をすでに持っていて現場で活躍している上席者に頑張ったことをほめられ、そのことを活かすように励まされた。
319	より専門性の高い考え方ができる人と評価された。「学び」に対して意識が高い人と評価された。
320	ケースを通じて連携したケアマネージャーと名刺交換した際に「認定社会福祉士」の方と初めて会ったと、関心を持ってくれたケアマネージャーがいた。
321	社会福祉士のごく一部に関心を持っている人がいる。社会福祉士以外には、ほとんど知られていない。
322	職場の上司や同僚などからは、社会福祉士という資格をより詳しく（専門性を追求している資格であることを）認めてもらうことができた。
323	職能団体や同僚、部下なども取得を目指している。
324	自分も取得したいと考えていると言う話を聞いた。
325	「あ、認定取ったんですね」というような反応。「すごいですね」というような一目置かれるような反応（と感じる）。
326	同僚では認められるが上司等は関心がない。
327	現状の業務にとどまらず、資質向上のために努力していると評価された。
329	取得のハードルが高い。

330	認定されることの意義や、されていない者との違いを尋ねられた。今後申請を検討する人からは、どのようなプロセスで認定されるのか相談された。
331	同業他機関の方から資格についての質問があった。認定を持っていることで信頼度が増したように感じる。
336	認定を受けることを推奨していたため、より認めて頂けた。
339	・認定取得までの過程（課題や申請方法）について。・県内で何人くらい認定されているのか。
343	知り合いの社会福祉士から認定社会福祉士取得についての相談を受ける機会が多くなった。
344	職務を行いながら取得しての評価と、研修を受けスキルを取得しようとする姿勢について評価をいただきました。
345	取得方法についての質問を受けた。
346	認定者が少ないことで関心は示していましたが、資格有する意味が浸透していなかったのが実態でした。
348	「認定」を取った事への敬意。
349	認定社会福祉士ということで、その内容を知っている人たちからはどうしたら取れるのか助言をして欲しいとの相談が多かった。
350	家族と他機関の同職種からは評価された。が、同職場には認定社会福祉士がいないことから、あまり評価の対象とならないことが、登録をしてもメリットを感じられない点ではあります。
351	「私も専門職としてもっと勉強しようと思った」とのことでステップアップのために別の職場を選ばれた。
352	国会の付帯決議を受けて創設された制度であり、社会福祉士資格を所有する者として、キャリアアップの手段の一つとして関心があるように思えた。